

江戸時代の町なみ

このエリアには、江戸の流通の重要地点である大伝馬町と小伝馬町があり、通旅籠町、通油町、通塩町といった問屋街が江戸時代初期からあった。江戸の大通りの1つである本町通りが浜町川と交差して浅草橋に続く。浅草

橋の近くには郡代屋敷（役人の住まい）が置かれ、龍閑川の南には伝馬町半屋敷があった。この地区の北東はし（地図右はし）には両国橋がかけられ、その橋のすぐ近くには両国広小路がつけられた。

江戸の流通をささえる町

- 1 大伝馬町（現・日本橋大伝馬町）
- 2 小伝馬町（現・日本橋小伝馬町）
- 3 小伝馬上町（現・日本橋小伝馬町）

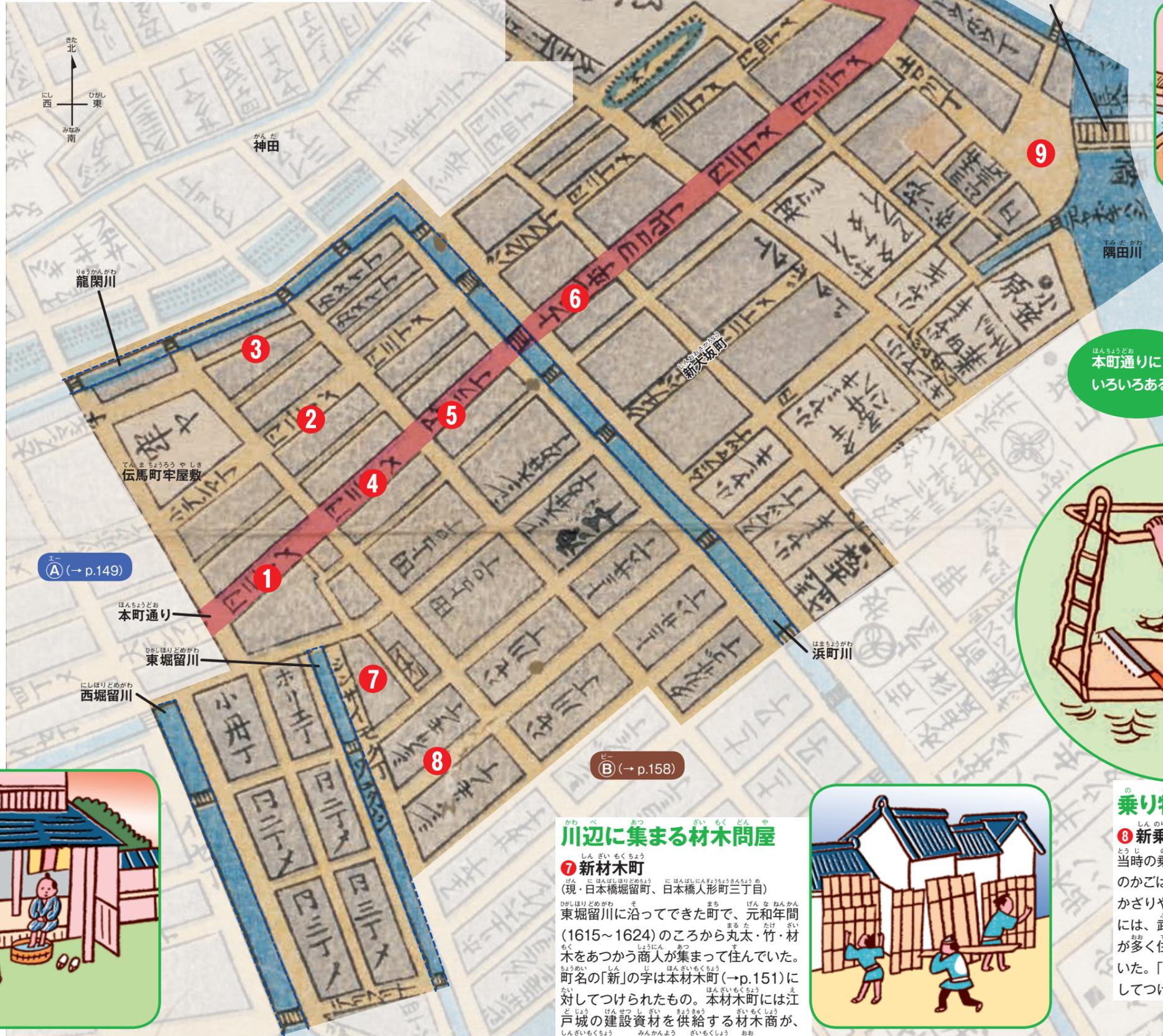
本町通り沿いに、伝馬役所がある大伝馬町が置かれていた。小伝馬町・南伝馬町（→p.177）と合わせて三伝馬町とよび、大伝馬町と南伝馬町のことは両伝馬町とよんでいた。小伝馬上町は小伝馬町の北（上）に位置したことによる。



生活物資の通り道

- 4 通旅籠町（現・日本橋大伝馬町、日本橋小伝馬町、日本橋堀留町）
- 5 通油町（現・日本橋大伝馬町）
- 6 通塩町（現・日本橋横山町、日本橋馬喰町）

町名の頭文字「通」は本町通り沿いの町であることの表れ。大伝馬町、小伝馬町に接した通旅籠町は、旅籠（旅館）が多かったことからこの名がつけられた。通油町は灯油の商店が多かったことからつけられた町名で、通塩町は塩をあつかう店が多かったことによる。塩は今も昔も生活になくてはならないものであり、江戸時代においては重要な戦略物資でもあった。



9 両国広小路（現・東日本橋二丁目）
明暦の大火（→p.32）のあとに両国橋の西側につくられた。防火対策用の空き地のため常設の建物は建てられず、朝は青物市が立ち、そのあとは仮設の芝居小屋や茶屋、食べもの屋などが並び、盛り場としてにぎわっていた。



本町通りにいろいろあるね。



川辺に集まる材木問屋

7 新材木町（現・日本橋堀留町、日本橋人形町三丁目）
東堀留川に沿ってできた町で、元和年間（1615～1624）のころから丸太・竹・材木をあつかう商人が集まって住んでいた。町名の「新」の字は本材木町（→p.151）に對してつけられたもの。本材木町には江戸城の建設資材を供給する材木商が、新材木町には民間用の材木商が多かった。



乗り物をつくる町人町

8 新乗物町（現・日本橋堀留町）
当時の乗り物とはかごのことで、武士用のかごは身分と格式によって形や大きさ、かざりやもようも決まっていた。この町には、武士用の高級なかごを製造する者が多く住んでいたことから、この名がつけられた。「新」の字は、神田の元乗物町に對してつけられた。